



## その他のバックアップ処理 SnapCenter software

NetApp  
November 06, 2025

# 目次

その他のバックアップ処理 .....	1
UNIXコマンドを使用したOracleデータベースのバックアップ.....	1
Oracleデータベースのバックアップ処理のキャンセル.....	2
[Topology]ページでのOracleデータベースのバックアップとクローンの表示 .....	3

# その他のバックアップ処理

## UNIXコマンドを使用したOracleデータベースのバックアップ

バックアップのワークフローには、計画、バックアップするリソースの特定、バックアップポリシーの作成、リソースグループの作成とポリシーの適用、バックアップの作成、処理の監視が含まれます。

### 必要なもの

- *Add-SmStorageConnection* コマンドと *Add-SmCredential* コマンドを使用して、ストレージシステム接続を追加し、資格情報を作成しておく必要があります。
- *Open-SmConnection* コマンドを使用して、SnapCenter Server との接続セッションを確立しておく必要があります。

SnapCenterアカウントでのログインセッションは1つしか確立できず、トークンはユーザのホームディレクトリに保存されます。



接続セッションは24時間を過ぎると無効になります。ただし、*TokenNeverExpires* オプションを使用して期限切れにならないトークンを作成し、セッションが無効にならないようにすることができます。

### このタスクについて

次に示すコマンドを実行して、SnapCenter Server との接続の確立、Oracleデータベース インスタンスの検出、ポリシーとリソースグループの追加、バックアップの作成と検証を行います。

コマンドで使用できるパラメータとその説明に関する情報は、*Get-Help command\_name* を実行すると取得できます。あるいは、"[SnapCenterソフトウェア コマンド リファレンス ガイド](#)"。

### 手順

1. 指定されたユーザーのSnapCenter Server との接続セッションを開始します: *Open-SmConnection*
2. ホスト リソース検出操作を実行します: *Get-SmResources*
3. Real Application Cluster (RAC) データベースのバックアップ操作用に Oracle データベースの資格情報と優先ノードを構成します: *Configure-SmOracleDatabase*
4. バックアップポリシーを作成します: *Add-SmPolicy*
5. セカンダリ (SnapVaultまたはSnapMirror) ストレージの場所に関する情報を取得します: *Get-SmSecondaryDetails*

このコマンドでは、指定したリソースのプライマリ ストレージからセカンダリ ストレージへのマッピングの詳細が取得されます。バックアップ リソースグループを作成する際に、このマッピングの詳細を使用してセカンダリの検証を設定できます。

6. SnapCenterにリソースグループを追加します: *Add-SmResourceGroup*
7. バックアップを作成します: *New-SmBackup*

WaitForCompletionオプションを使用してジョブをポーリングすることができます。このオプションを指定しない場合は、バックアップジョブが完了するまでコマンドが引き続きサーバをポーリングします。

## 8. SnapCenterからログを取得します: *Get-SmLogs*

# Oracleデータベースのバックアップ処理のキャンセル

実行中のバックアップ処理、キューに登録されたバックアップ処理、応答しないバックアップ処理をキャンセルできます。

バックアップ処理をキャンセルするには、SnapCenter管理者またはジョブ所有者としてログインする必要があります。

このタスクについて

バックアップ処理をキャンセルすると、SnapCenter Serverにより処理が停止されます。作成されたバックアップがSnapCenter Serverに登録されていない場合、ストレージからすべてのSnapshotが削除されます。バックアップがすでにSnapCenter Serverに登録されている場合、キャンセルがトリガーされても、すでに作成されているSnapshotはロールバックされません。

- キャンセルできるのは、キューに登録されているか実行中のログ バックアップまたはフル バックアップの処理だけです。
- 検証の開始後は、処理をキャンセルできません。

検証前に処理をキャンセルすると、処理はキャンセルされ、検証処理は実行されません。

- カタログ処理が開始されたあとにバックアップ処理をキャンセルすることはできません。
- バックアップ処理は、[Monitor]ページまたは[Activity]ペインでキャンセルできます。
- SnapCenter GUIからだけでなく、CLIコマンドを使用して処理をキャンセルすることもできます。
- キャンセルできない操作の場合、「ジョブのキャンセル」ボタンは無効になります。
- ロールの作成時に [ユーザー\グループ] ページで このロールのすべてのメンバーが他のメンバーのオブジェクトを表示および操作できる を選択した場合、そのロールの使用中に他のメンバーのキューに入れられたバックアップ操作をキャンセルできます。

ステップ

次のいずれかを実行します。

方法	アクション
[Monitor]ページ	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 左側のナビゲーション ペインで、モニター &gt; ジョブ をクリックします。</li><li>2. 操作を選択し、「ジョブのキャンセル」をクリックします。</li></ol>

方法	アクション
[Activity]ペイン	<ol style="list-style-type: none"> <li>バックアップジョブを開始したら、 アクティビティ ペインで、最新の 5 つの操作を表示します。</li> <li>処理を選択します。</li> <li>ジョブの詳細ページで、「ジョブのキャンセル」をクリックします。</li> </ol>

## 結果

処理がキャンセルされ、リソースが元の状態に戻ります。

キャンセルした操作がキャンセル中または実行中の状態で応答しない場合は、`Cancel-SmJob -JobID <int> -Force` を実行して、バックアップ操作を強制的に停止する必要があります。

## [Topology]ページでのOracleデータベースのバックアップとクローンの表示

リソースのバックアップまたはクローニングを準備する際に、プライマリ ストレージとセカンダリ ストレージ上のすべてのバックアップとクローンの図を表示すると役に立ちます。

このタスクについて

[Topology]ページでは、選択したリソースまたはリソース グループに使用できるバックアップとクローンをすべて表示できます。これらのバックアップとクローンの詳細を参照し、対象を選択してデータ保護処理を実行できます。

プライマリ ストレージまたはセカンダリ ストレージ（ミラー コピーまたはバックアップ コピー）にバックアップとクローンがあるかどうかは、[Manage Copies]ビューの次のアイコンで確認できます。

- 
 プライマリ ストレージで使用可能なバックアップとクローンの数を表示します。
- 
 SnapMirrorテクノロジーを使用してセカンダリ ストレージにミラーリングされているバックアップとクローンの数を表示します。
- 
 SnapVaultテクノロジーを使用してセカンダリ ストレージに複製されたバックアップとクローンの数を表示します。

表示されるバックアップの数には、セカンダリ ストレージから削除されたバックアップも含まれます。たとえば、バックアップを4個保持するポリシーを使用してバックアップを6個作成した場合、バックアップの数は6個と表示されます。



mirror-vaultタイプのボリュームにあるバージョンに依存しないミラーのバックアップのクローンはトポロジビューに表示されますが、トポロジビューのミラーバックアップの数にはバージョンに依存しないバックアップは含まれません。

SnapMirrorアクティブ同期 (当初はSnapMirror Business Continuity [SM-BC] としてリリース) としてセカンダリ関係がある場合は、次の追加アイコンが表示されます。

-  レプリカサイトが稼働しています。
-  レプリカサイトはダウンしています。
-  セカンダリ ミラーまたはボルト関係が再確立されていません。

## 手順

1. 左側のナビゲーション ペインで [リソース] をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース] ページで、[表示] ドロップダウン リストからリソースまたはリソース グループを選択します。
3. リソースの詳細ビューまたはリソース グループの詳細ビューで、リソースを選択します。

リソースが保護されている場合は、選択したリソースの[Topology]ページが表示されます。

4. [Summary Card]で、プライマリ ストレージとセカンダリ ストレージ上にあるバックアップとクローンの数の概要を確認します。

[Summary Card]セクションには、バックアップとクローンの総数およびログ バックアップの総数が表示されます。

更新 ボタンをクリックすると、ストレージのクエリが開始され、正確な数が表示されます。

SnapLock対応バックアップが取得された場合、[更新] ボタンをクリックすると、ONTAPから取得されたプライマリおよびセカンダリSnapLockの有効期限が更新されます。週次スケジュールでも、ONTAPから取得したプライマリおよびセカンダリのSnapLock有効期限が更新されます。

アプリケーション リソースが複数のボリュームに分散している場合、バックアップのSnapLock有効期限は、ボリューム内のSnapshotに設定されている最長のSnapLock有効期限になります。最長のSnapLock有効期限はONTAPから取得されます。

SnapMirrorアクティブ同期の場合、[更新] ボタンをクリックすると、プライマリ サイトとレプリカ サイトの両方に対してONTAPを照会してSnapCenterバックアップ インベントリが更新されます。週次スケジュールでも、SnapMirrorアクティブ同期関係を含むすべてのデータベースに対してこの処理が実行されます。

- SnapMirrorアクティブ同期とONTAP (バージョン9.14.1のみ) では、新しいプライマリ デスティネーションに対する非同期ミラーまたは非同期ミラー バックアップの関係については、フェイルオーバー後に手動で設定する必要があります。ONTAP 9.15.1以降は、新しいプライマリ デスティネーションに対する非同期ミラーまたは非同期ミラー バックアップが、自動的に設定されます。
  - フェイルオーバーが完了したら、SnapCenterがフェイルオーバーを認識できるようにバックアップを作成する必要があります。バックアップが作成された後にのみ、「更新」をクリックできます。
5. 「コピーの管理」ビューで、プライマリ ストレージまたはセカンダリ ストレージから バックアップ また

は クローン をクリックして、バックアップまたはクローンの詳細を表示します。

バックアップとクローンの詳細が表形式で表示されます。

6. 表でバックアップを選択し、データ保護アイコンをクリックして、リストア、クローニング、マウント、アンマウント、名前変更、カタログ化、カタログ化解除、削除の各処理を実行します。



セカンダリ ストレージ上のバックアップは、名前変更または削除できません。

- ログ バックアップを選択した場合は、名前の変更、マウント、マウント解除、カタログ、カタログ解除、および削除の操作のみを実行できます。
- Oracle Recovery Manager (RMAN) を使用してバックアップをカタログ化した場合、そのバックアップの名前は変更できません。

7. クローンを削除する場合は、表でクローンを選択し、 をクリックします。

SnapmirrorStatusUpdateWaitTimeに割り当てられている値が小さい場合は、データ ボリュームとログ ボリュームが正常に保護されていても、ミラーとバックアップのバックアップ コピーはトポロジ ページに表示されません。 `Set-SmConfigSettings` PowerShell コマンドレットを使用して、SnapmirrorStatusUpdateWaitTime に割り当てられた値を増やす必要があります。

コマンドで使用できるパラメータとその説明に関する情報は、`Get-Help command_name` を実行すると取得できます。

あるいは、"[SnapCenterソフトウェア コマンド リファレンス ガイド](#)"または"[SnapCenterソフトウェア コマンドレット リファレンス ガイド](#)"。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。